

兵庫陶芸美術館 特別展
オールドノリタケ×若林コレクション
 — アールヌーヴォーからアールデコに咲いたデザイン —
 2022年3月19日(土)～5月29日(日)

オールドノリタケとは、名古屋を拠点とする株式会社ノリタケカンパニーリミテドのルーツである森村組および日本陶器によって、明治中期から第二次世界大戦期にかけて製作・販売・輸出された陶磁器を指します。

欧米で万国博覧会が開催された19世紀後半、日本をはじめとする異国への関心が高まりを見せる中、日本政府は機に乗じ、殖産興業政策の一環として輸出用の陶磁器の生産を強化しました。このような時代に創業した森村組と後に森村組が設立した日本陶器は、アメリカの販売拠点であるモリムラブラザーズと協働して新しいデザインを次々と考案し、華やかな西洋風の陶磁器を生み出しました。

「色絵金盛薔薇文飾壺」は、19世紀末から20世紀にかけて欧米を席卷したアールヌーヴォーと呼ばれる美術様式の影響を受けて生み出された作品です。古代ギリシャに起源を持つアンフォラと呼ばれる形状の壺に金彩や金盛の技法で華やかな装飾を施しています。器体の胴部には、ピンク色と白色の薔薇が手描きで丁寧に描かれています。

他方、「色絵ラスター彩婦人文皿」は、1910年代から30年代に装飾や美術、ファッションなどの分野で流行したアールデコの様式を取り入れた作品です。「アールデコの寵児」と呼ばれたデザイナーのエルテが描いた女性のイラストをモチーフにして、器体の表面に虹のような輝きを放つラスター彩を施しています。

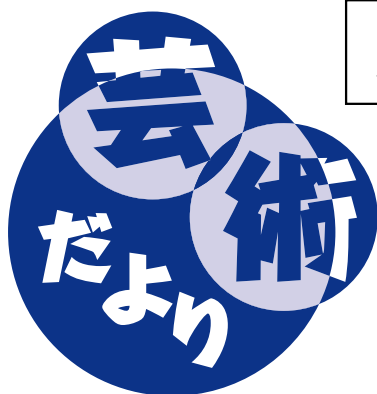


色絵金盛薔薇文飾壺 1891-1921年頃



色絵ラスター彩婦人文皿 1920-31年頃

※すべて若林コレクション



兵庫陶芸美術館
 学芸員 萩原 英子

本展は、日本屈指のオールドノリタケコレクションである若林コレクションから、技巧を凝らした陶磁器やそのデザイン画など、選りすぐりの約250件を紹介します。今なお、人々を魅了してやまないオールドノリタケの華麗なる世界を是非お楽しみください。

※展覧会の詳細は兵庫陶芸美術館のHP (<https://www.mcart.jp>) をご覧ください。なお、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、展覧会の中止や変更をさせていただく場合があります。ご来館の際は、当館HPなどで最新情報をご確認ください。